

12-B オオモミジ・ヤマモミジ・コハウチワカエデの巨木

※オオモミジ・ヤマモミジは共にイロハモミジの変種で、葉の形態に違いが見られるが、識別には経験が必要で、誤認される場合がある。イロハモミジと同じ分布域のオオモミジは、葉が大きいので識別容易であるが、ヤマモミジと分布域を同じくするコハウチワカエデはよく似ていて、葉柄の毛の有無等を確認する必要がある。



イロハモミジの葉 オオモミジの葉 ヤマモミジの葉 コハウチワカエデの葉

※イロハモミジの葉は5~7深裂。
 オオモミジの葉は7~9裂で、7~11裂と大きい。
 ヤマモミジの葉は7~9中裂し、葉柄は無毛
 コハウチワカエデの葉は7~11中裂し、葉柄は有毛。
 ヤマモミジとコハウチワカエデが混生する日本海側では雑種が多く、葉柄の有毛を全てコハウチワカエデとする。

■オオモミジ・ヤマモミジの巨木評価基準

- A 幹周おおむね4m以上の単幹樹、同等評価のオオモミジの巨木。
- B 幹周おおむね3~4mの単幹樹、同等評価のオオモミジの巨木。
- C B評価以下のオオモミジの巨木。

■主なオオモミジ・ヤマモミジ・コハウチワカエデの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	大峰高原の大カエデ 写真 O-001	M3.86m(分岐 0.2m 2014)	12m	長野県北安曇郡池田町池田 大峰高原	なし
B	三分一湧水公園のオオモミジ 写真 O-002	M3.61m(1.3m 2008)	16m	山梨県北杜市長坂町小荒間	なし
B	大古屋のオオモミジ 写真 O-003	3.25m	15m	広島県庄原市東城町内堀大古屋	市
B	大木のオオモミジ 写真 O-004	M3.05m(1.3m 2008)	18m	長野県木曾郡上松町小川	なし
B	千種街道のオオモミジ 写真 O-005	M3.0m(0.7m 2015)	15m	滋賀県東近江市甲津畑町	なし
B	浅間神社の大カエデ 写真 O-006	3.0m	13m	群馬県高崎市倉沢町浦内 3083	村
C	慈光寺の傘楓 写真 O-007	2.9m	3.8m	岩手県久慈市大川町	市
C	敷原天降社のオオモミジ 写真 O-008	2.45m	14m	長野県木曾郡木曾町敷原 607	村
流出	龍泉寺のモミジ(ヤマモミジ) 写真 YM-009	2.3m	7m	岩手県陸前高田市気仙町字愛宕下	市
B	津子嶽神社のコハウチワカエデ 写真 KH-010	M1.72m(1.3m 2010)	15m	徳島県美馬郡つるぎ町津志嶽尾根	なし



◀写真 O-008
 敷原天降社のオオモミジ
 (写真・Web画像)

写真 YM-009▶
 流出・龍泉寺のモミジ
 ヤマモミジの巨木で、現在確認されている唯一の存在であったが、2011.3.11の大津波で寺ごと流出した。
 (写真・Web画像)





▲写真 O-001
大峰高原の大カエデ

「七色カエデ」の名前で知られるオオモミジで、紅葉時、七色に変化して紅葉するので有名になり、観光地化している。1947年、牧場に開拓する際、この巨大なカエデの根を掘り起す事ができず、地上1m程で伐採した。ところが、21年後の1968年に立派に再生し、七色に紅葉する大カエデを再発見し、大切に保護する事にしたという。



▲写真 O-002
三分一湧水公園のオオモミジ

児童公園の中央に立つ。地上2mで4分岐し、大きく枝葉を広げる。古木らしい風格あるオオモミジである。



◀写真 O-003
大古屋のオオモミジ
(写真・Web画像)



写真 O-006▶
浅間神社の大カエデ
オオモミジの巨木である。
(写真・Web画像)



▲写真 O-004
大木のオオモミジ

大木のトチノキのすぐ傍に立つもので、トチノキも案内板もなく、もちろんオオモミジは全く知られていない。



▲写真 O-007
慈光寺の傘楓
オオモミジの巨木である。
(写真・Web画像)

写真 KH-010▶
津志嶽神社のコハウチワカエデ

津志嶽の尾根にある神社近くに立つ単幹樹。コハウチワカエデの報告例がほとんどない中、貴重な存在である。この上部に日本一の「津志嶽のシヤクナゲ」がある。

◀写真 O-005
千種街道のオオモミジ
旧街道である千種街道中程にあるもので、日本一のイヌシデ「千種街道の大シデ」よりさらに登った街道沿い、標高820mに立つ。



12-C

イタヤカエデ(板屋楓)の巨木

カエデ科カエデ属
Acer mono

多くの変種があり(オニイタヤ・アカイタヤ等)、葉の毛の有無等で区別するので、巨木分類では分類しない。カエデ科の樹木の中では巨大化する樹種。しかし、山地にあるものが多く、調査が進んでいないので、報告例が少ない。近年、東京都の金岱山で幹周 3.22m のイタヤカエデの報告がある等、今後新発見が期待される。しかし、巨木 DB 幹周 8.6m、日本一のイタヤカエデとされる、青森県津軽郡の「鍋田稲荷神社のイタヤカエデ」は存在の確認はできなく、巨木 DB の上位にあるものは確認できないものが多い。

■イタヤカエデの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5.5m 以上の単幹樹、同等評価のイタヤカエデの巨木。
- B 幹周おおむね 4~5.5m の単幹樹、同等評価のイタヤカエデの巨木。
- C B 評価以下のイタヤカエデの巨木。

■主なイタヤカエデの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	大沢のイタヤカエデ 写真 IK-001	M5.84m(1.3m 2014)	20m	秋田県横手市雄物川町大沢字坂ノ下	市
B	薬師寺の石割楓 写真 IK-002	株周 M6.5m(1.3m 2008)	12m	青森県黒石市温湯温泉 薬師寺	市
B	角沢のイタヤカエデ(雄株) 写真 IK-003	M5.27m(1.3m 2012)	25m	山形県新庄市角沢字清水	なし
B	” (雌株) 写真 IK-004	M4.05m(1.3m 2012)	25m	”	なし
B	医王山のイタヤカエデ 写真 IK-005	M4.9m(1.3m 2008)	25m	石川県金沢市二俣町大池平	なし
B	小城のイタヤカエデ 写真 IK-006	4.3m	20m	兵庫県美方郡香美町村岡区小城	なし
B	御前山のイタヤカエデ 写真 IK-007	4.05m	20m	東京都西多摩郡奥多摩町御前山尾根	なし
C	三嶽神社のイタヤカエデ 写真 IK-008	株周 5.75m	23m	京都府福知山市字上佐々木 三岳山	市
C	八坂神社のイタヤカエデ 写真 IK-009	3.5m	21m	新潟県妙高市三本木町新田	なし
C	指久保神社のイタヤカエデ 写真 IK-010	3.73m	不明	青森県十和田市	なし
C	山神神社のペニイタヤ 写真 IK-011	3.91m	25m	岩手県滝沢村鶴飼字姥屋敷 30-1-3	村
C	五輪原のイタヤカエデ 写真 IK-012	5.5m	15m	岡山県津山市加茂町倉見大ヶ山	市
C	白玉の滝王イタヤ	株周 6.05m(根元 2 分岐)	20m	新潟県新津市 佐久那殿神社	なし
	高滝のイタヤカエデ	5.45m	25m	山形県最上郡真室川町八敷代高滝	なし
枯死	金満神社のイタヤカエデ	M3.65m(1.3m 2006)	15m	石川県白山市河内 金満神社	なし

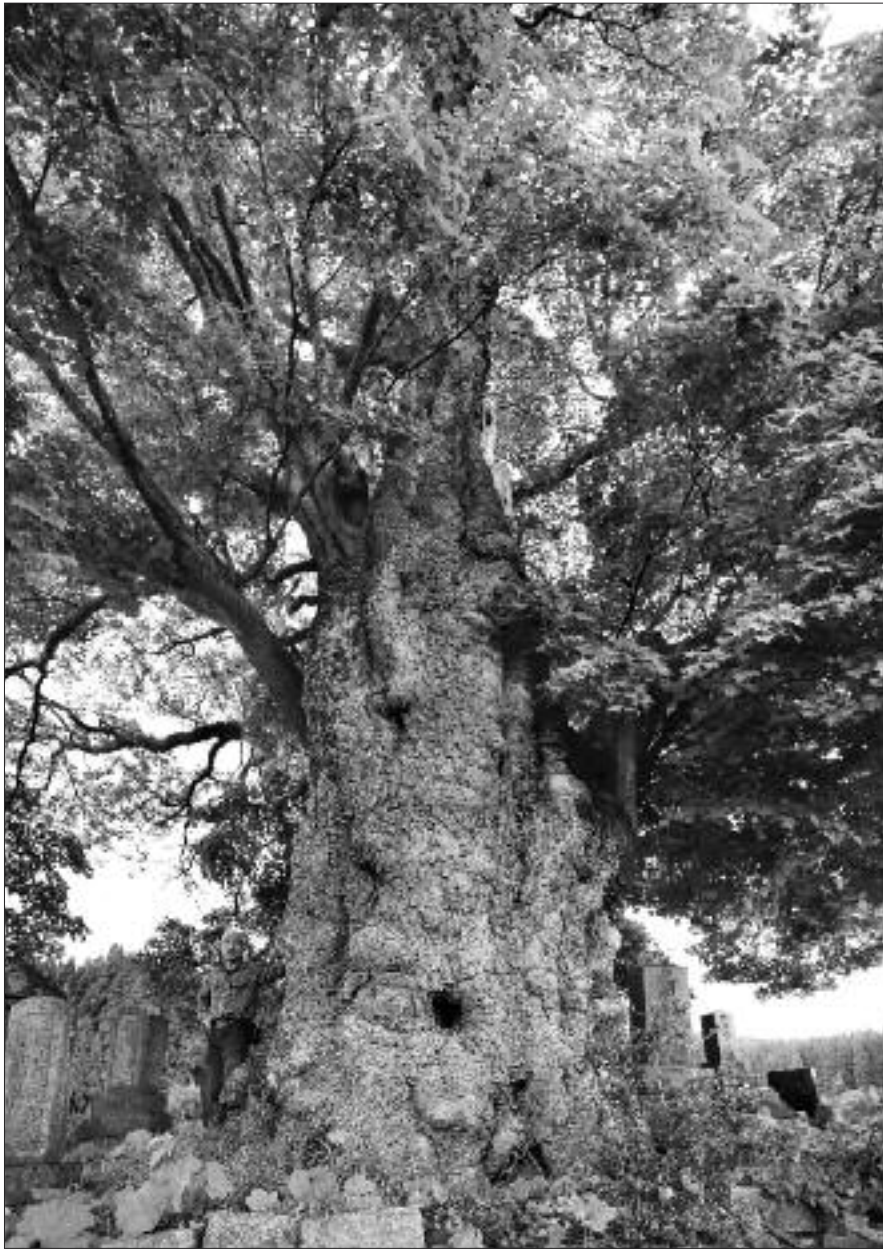


写真 IK-001

日本一のイタヤカエデ

おおさわ

大沢のイタヤカエデ

現地記載幹周4.7mで、この巨大なイタヤカエデが全く認識されなかったが、2010年頃に画像を見て、これは大変なイタヤカエデではないかと推察、2014年に現地調査をして、予想通り日本一のイタヤカエデと認定した。

地元の墓地の中心に墓標として植えられたもので、本荘街道を往来する人々の道標になったという。2.5mで側幹が斜上し、主幹は4mで2分岐、大きく枝葉を広げる見事なイタヤカエデである。(下写真・全景)



▲写真 IK-003

つのさむ 角沢のイタヤカエデ(雄株)

畑の一角に立つ「清水の夫婦カエデ」とも呼ばれるもので、2本ある。太い幹は雄株で、3mで2分岐、樹勢は旺盛だ。



◀写真 IK-002
いしおりのかきで 薬師寺の石割楓

樹種はオニイタヤである。薬師寺の境内、大きな岩の上に巨大な根を張って立つ巨木で、古色蒼然として風格のある樹形だ。巨大な根が岩を割っているようなので、命名された。



▲写真 IK-004
つのざわ
 角沢のイタヤカエデ(雌株)
 雄株のすぐ隣に立つ。



◀写真 IK-005
いおうぜん
 医王山のイタヤカエデ
 鳶岩直下の大沼ほとりに
 立つ見事なイタヤカエデの
 巨木である。



▲写真 IK-006
 小城のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



▲写真 IK-007
ごぜんやま
 御前山のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



▲写真 IK-008
みたけ
 三嶽神社のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



▲写真 IK-009
 八坂神社のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)

▼写真 IK-010
さしくぼ
 指久保神社のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



▼写真 IK-011
やまがみ
 山神社のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



▼写真 IK-012
ごりんほら
 五輪原のイタヤカエデ
 (写真・Web 画像)



12-D オオイタヤメイゲツ(大板屋名月)の巨木

カエデ科カエデ属
Acer shirasawanum

※オオイタヤメイゲツとハウチワカエデは、花が違い、葉柄の長さや葉の大きさに違いはあるものの、巨木となると、高い位置に葉や花があり、識別が困難になる。そのため、近年伊豆や大台が原山で認識されている巨木がどちらなのか確証が持てない。そのため、本書ではオオイタヤメイゲツの巨木項目として情報を掲載し、今後の正確な調査を待ちたい。



天城山のハウチワカエデ
(写真・Web 画像)



大台ヶ原山のオオイタヤメイゲツ
(写真・Web 画像)



黒法師山のオオイタヤメイゲツ
(写真・Web 画像)



丹沢・檜洞丸のオオイタヤメイゲツ
(写真・Web 画像)



井川高原のオオイタヤメイゲツ
(写真・Web 画像)

12-E

ハナノキ(花の木)の巨木

カエデ科カエデ属
Acer pycnanthum

※ハナノキは限られた地域に生育する稀少種である。主として長野県、愛知県、岐阜県の山地の湿地に生育するカエデ科の樹木。雌雄異株で、雄花は3月頃、葉の出る前に紅色の美しい花を多数付け、美しいのでハナノキの名前がある。11月下旬には美しく紅葉する。群生地は国指定天然記念物指定である。

■ハナノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3.8m 以上の単幹樹、同等評価のハナノキの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3.8m の単幹樹、同等評価のハナノキの巨木。
- C B 評価以下のハナノキの巨木。

※ハナノキは稀少種であるため、群生地では巨木でなくても国指定になっている場合がある。「巨木学」では、単体として評価を試みる。

■主なハナノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	下手向のハナノキ 写真 H-001	M3.85m(1.3m 2015)	20m	岐阜県恵那市山岡町下手向	市
A	山本のハナノキ 写真 H-002	株周 M6.05m(0.3m 2008)	30m	長野県飯田市山本 6771	県
A	新宿御苑のハナノキ 写真 H-003	3.83m	13m	東京都新宿区 新宿御苑	なし
B	釜戸のハナノキ 写真 H-004	3.58m	不明	岐阜県瑞浪市釜戸町神徳	国
B	ニツ森のはなの木 写真 H-005	3.2m	29m	岐阜県中津川市福岡ニツ森	市
B	巢乗のハナノキ 写真 H-006	3.15m	28m	岐阜県中津川市川上奥屋巢乗谷	市
B	長光寺のハナノキ 写真 H-007	M3.0m(1.3m 2008)	8m	滋賀県近江八幡市長光寺町 694	市
C	北花沢のハナノキ(古株・新株) 写真 H-008 H-009	M2.1m(0.7m 2007) M1.8m(分岐 0.3m 2007)	17m	滋賀県近江市北花沢	国
C	富田のハナノキ 写真 H-010	1.7m	18m	岐阜県恵那市岩村町富田	国
C	坂本のハナノキ(最大株)	1.8m	25m	岐阜県中津川市千旦林 1363-1	国
枯死	南花沢の花の木 写真 H-011	M5.5m(1.3m 2007)	10m	滋賀県東近江市南花沢町	国



◀写真 H-011
みなみはなざわ
枯死・南花沢のハナノキ
旧日本一のハナノキで、八幡神社社殿前に立っていた。
撮影 2007 年。

▼写真 H-003
しんじゅくぎやん
新宿御苑のハナノキ
サービスセンター近くに立つ、2m で多数に分岐し、大きな樹幹を形成、紅葉は見事である。(写真・Web 画像)





◀写真 H-001
 日本一のハナノキ
しもとうげ
 下手向のハナノキ
 下手向花の木会館の前、駐
 車場の際に立つ。3mで2分
 岐し、大きく枝葉を広げ、見
 事である。



▲写真 H-002
やまもと
 山本のハナノキ
 雄株で、根元で大小6分岐、4本
 が融合して立上がる樹形。4本の内
 2本が上部で連理する。樹勢もよく、
 見事なハナノキである。



▲写真 H-004
かまど
 釜戸のハナノキ
 (写真・原一興)



▲写真 H-005
 二つ森のはなの木
 (写真・原一興)



▲写真 H-006
すのり
 巣乗のハナノキ
 (写真・原一興)



▲写真 H-007
ちょうこうじ
 長光寺のハナノキ
 山門を入ってすぐ立つ。2.5mで5
 分岐していたが、主幹が枯れ、4分岐
 する。



◀写真 H-008・009
きたはなざわ
 北花沢のハナノキ
 (左・古株 右・新株)

写真 H-010▶
とみだ
 富田のハナノキ
 (写真・Web画像)



12-F メグスリノキ(目薬の木)の巨木

カエデ科カエデ属
Acer nikoense

※別名チョウジャノキともいわれ、葉を煎じて飲むと眼病に効果があり、長者になったとのいわれがある。葉は3出複葉の特徴のある形で、高い所にあっても認識できる(右下写真・Web画像)。しかし、メグスリノキ自体の認識度が低いため、巨木の報告例が少なく、今後新発見が期待される樹木でもある。

■メグスリノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね4m以上の単幹樹、同等評価のメグスリノキの巨木。
- B 幹周おおむね3~4mの単幹樹、同等評価のメグスリノキの巨木。
- C B評価以下のメグスリノキの巨木。



2015年現在

■主なメグスリノキの巨木

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	杓子ヶ入のメグスリノキ 写真 M-001	M4.1m(1.3m 2009)	23m	福島県喜多方市塩川町中屋沢字水山	市
B	八幡宮鞠子社のメグスリノキ 写真 M-002	3.6m	28m	長野県松本市梓川上野	県
B	山の神さんメグスリノキ 写真 M-003	3.36m	20.4m	愛媛県新居浜市別子山中七番	なし
B	大除沢のメグスリノキ 写真 M-004	M3.0m(1.3m 2012)	30m	埼玉県秩父市栃本	なし
C	下新井のメグスリノキ 写真 M-005	2.8m	15m	長野県佐久郡北相木村	県
C	御前山のメグスリノキ 写真 M-006	2.86m	18m	東京都西多摩郡奥多摩町御前山尾根	なし
	吾妻溪谷のメグスリノキ 写真 M-007	不明	不明	群馬県吾妻郡吾妻町	なし



写真 M-001

日本一のメグスリノキ

しゃくしがいり

杓子ヶ入のメグスリノキ

杓子ヶ入には会津若松の北、喜多方に向かう途中から雄国沼へ向かう林道に入る。林道沿いに標識があり、林の中を100m程進むと、小さな谷川沿いに巨樹が立つ。地上4mで2分岐し、双方はさらに上部で2、3分岐する樹形。主幹は縦に皺が入り、苔むし、老木の風格がある。訪れる人もあまり無いようで、周辺は夏草が茂っていた。(下写真・全景)





▲写真 M-002

八幡宮^{まりこじや}鞠子のメグスリノキ

神社入口に立つ見事な単幹樹で、秋の紅葉は真っ赤になり美しい。(写真・Web 画像)



▲写真 M-003

山の神さんメグスリノキ

住友フォレストハウス園内の遊歩道沿いに立つ。(写真・Web 画像)



▲写真 M-004

大除沢^{おおよけざわ}のメグスリノキ

大除沢の不動滝からさらに踏分道を谷の尾根に分け入った斜面に立つ。



▲写真 M-005

下新井^{しもあらい}のメグスリノキ

集落入口にある小さな神社境内に立つ。(写真・Web 画像)



▲写真 M-006

御前山^{ごぜんやま}のメグスリノキ

(写真・Web 画像)



▲写真 M-007

吾妻溪谷^{あづまけいこく}のメグスリノキ

(写真・Web 画像)

13, カツラ科の巨木 *Cercidiphyllaceae*

■カツラの巨木は以下に分類する。

- A 単幹カツラの巨木
- B 株立ちカツラの巨木
- C シダレカツラの巨木